

福岡県公安委員会活動状況

<定例会の主な議題及び要旨>

平成30年4月26日（木）

【報告事項】

1 平成29年度下半期における留置施設に対する実地監査結果等について

（警務部）

警察本部から「平成29年度下半期における留置施設の実地監査については、警察署の19留置施設を対象に実施した。良好事項としては、大号令等による規律及び秩序の維持や無記名式アンケートによる職場環境等の改善があった。」旨の報告があった。

公安委員から「被留置者から意見、要望を受ける制度はあるのか。また、護送時には勤務員間の連携を強化するなど、護送時における逃走事故防止に十分留意してほしい。」旨の発言があり、警察本部から「刑事収容施設法に基づく不服申立制度などがある。また、過去本県においても、被留置者に対する便宜供与など不適切な事例が発生していることから、逃走事故防止を含め指導を徹底していく。」旨の説明があった。

2 平成29年度第4四半期（1～3月）における監察実施結果について

（警務部）

警察本部から「平成29年度第4四半期において、本部及び警察署の11所属に対して総合監察を、また、警察署、交番等に対して計116回の随時監察を実施した。良好事項として、指示命令の徹底に向けた取組や工夫を凝らした公用車事故防止対策があった。」旨の報告があった。

3 平成29年におけるSNS等に起因する被害児童の現状と対策について

（生活安全部）

警察本部から「県内における福祉犯罪等の被害児童数の推移については、SNSに起因するものが過去最多、出会い系サイトに起因するものが過去最少となっており、これはSNSの使い勝手の良さが増加の要因ではないかと考えられる。今後の対策としては、被害児童、保護者へのアンケート結果を踏まえ、保護者、児童等に対する危機意識の醸成のための広報啓発やサイバー補導及び福祉犯罪の取締りなどを推進していく。」旨の報告があった。

公安委員から「この種事案はさらに広がるおそれがあり、また、被害児童数は増加傾向にあるので、徹底した対策をお願いしたい。」旨の発言があった。

公安委員から「児童買春などについては、加害者だけでなく、被害児童についても、事件化しているのか。」旨の発言があり、警察本部から「他に犯罪に関わっている場合は事件化を検討する必要があるが、通常児童相談所や少年サポートセンターなどと連携し、児童に対する立ち直り支援を優先させている。」旨の説明があった。

公安委員から「SNS等に起因する被害児童の現状については、非常に憂慮すべき状況にあり、今後の対策については、しっかりと取り組んでもらいたい。また、県下全域の学校と連携するなど、保護者、児童等に対する教育を繰り返し実施するとともに、広報啓発活動の更なる推進をお願いしたい。」旨の発言があった。

4 執行隊の職務質問技能指導者による同乗指導の結果検証について

（地域部・北九州市警察部）

警察本部から「平成29年10月から平成30年3月までの間、地域警察官の現場執行力を強化するため、警察署の約100名の地域警察官に対して自動車警ら隊等の職務質問技能指導者によるパトカー同乗指導を行った。今後、本制度の活用を推進し、事件

検挙率の向上を図るとともに、指導体制を拡充していく。」旨の報告があった。

公安委員から「技能指導者は、何名いるのか。また、若手の地域警察官が多いという現状の中で、技能を伝承して若手を育てるものであり、非常に重要である。」旨の発言があり、警察本部から「職務質問技能指導者は、約200名である。今回は、そのうち、自動車警ら隊と機動警察隊の指導者約100名が同乗指導を実施した。さらに、指導者に対しては、研修会を実施し、事例の発表や同乗指導に関する意見交換など、指導者間の情報共有を行っており、引き続き若手警察官を中心に指導教養の充実強化に努めていく。」旨の説明があった。

5 平成29年中における来日外国人犯罪情勢について

(暴力団対策部)

警察本部から「平成29年中の県内の来日外国人検挙件数・人員は、ともに増加しており、過去10年では最多となっている。罪種別では、粗暴犯、窃盗犯、入管法違反の検挙件数の増加が顕著であり、在留資格別では、正規滞在が約8割を占めており、また、主要検挙事件は、外国人犯罪組織による窃盗（万引き）等事件や偽造クレジットカードに係る関税法違反・詐欺等事件であった。」旨の報告があった。

公安委員から「在留資格別で、正規滞在の内訳は、何がが多いのか。また、正規滞在者数は、年々増加しているのか。」旨の発言があり、警察本部から「留学が最も多く、次に短期滞在である。また、正規滞在者数は、旅行目的の短期滞在者や定住者が増加している。」旨の説明があった。

公安委員から「国籍別でベトナム人が多いのはなぜなのか。また、凶悪事件が増加しないように対策をお願いしたい。」旨の発言があり、警察本部から「ベトナム人の居住者数が、全国で平成23年の約4万人から平成29年には約23万人、県内では平成23年の約千人から平成29年には約1万人と増加しているのも要因の1つと考えられる。また、県内では窃盗犯の万引きが増加しているが、全国的には空き巣が増加しており、空き巣から状況次第では強盗など凶悪事件に発展する可能性があることから、対策を徹底していく。」旨の説明があった。

公安委員から「外国人が高額の手数料を犯罪組織に支払い、日本で不法就労するケースも考えられることから、国際的な連携を強化するなど対応をお願いしたい。」旨の発言があった。

公安委員から「入管法違反事件については、日本人が関与しているのか。」旨の発言があり、警察本部から「以前は、日本人の犯罪組織が関与し、外国人が不法入国する場が多かったが、最近では、日本で在留資格を取得した外国人が関与するものが増えてきていると考えられる。」旨の説明があった。

6 交通事故の発生状況等について（1～3月）

(交 通 部)

警察本部から「交通事故の発生状況は、発生件数・死者数ともに減少しており、広報啓発、薄暮時間帯における反射材着用促進及び交通安全教育の充実などを強化していく。飲酒運転事故の発生状況は、発生件数は増加し、検挙件数については減少しており、本部と警察署が連携した飲酒運転の発生実態を踏まえた取締りを実施していく。交通違反の検挙状況は、全体として減少しているが、最重点罪種である横断歩行者等妨害の検挙が増加しており、PDC Aサイクルに基づいた交通指導取締りを推進していく。」旨の報告があった。

公安委員から「横断歩行者等妨害とは、具体的にはどのような形態の違反なのか。また、特に横断歩行者等妨害違反の検挙を強化しているのか。」旨の発言があり、警察本部から「車両運転中に、横断歩道を横断する歩行者等がいる場合に、一時停止せず、歩

行者等の横断を妨害する行為である。また、昨年中、道路横断中の死亡事故が多数発生していたことから、取締りを強化している。」旨の説明があった。

公安委員から「現在、歩車分離の交差点が増加しているが、歩車分離の交差点では歩行者は安心して渡ることができるので、歩車分離を積極的に取り入れてほしい。また、マフラー音の大きい自動二輪車が散見されることから、取締りを強化してほしい。」旨の発言があり、警察本部から「歩車分離式の信号については、順次整備しているが、大きな交差点では、信号のサイクルが長くなり、渋滞を引き起こす要因ともなることから、実態を勘案しながら、整備を進めていきたい。また、マフラー音の大きい自動二輪車については、整備不良違反となることから取締りを徹底していく。」旨の説明があった。

7 ゴールデンウィーク期における暴走族及び旧車會対策について

(交 通 部)

警察本部から「暴走族及び旧車會は、例年、ゴールデンウィーク期に集団暴走行為を活発化させる傾向にあることから、走らせない対策や現場検挙に指向した取締りなど先制的な暴走族対策を実施するほか、ゴールデンウィーク中に、県下一斉取締りや福岡運輸支局との合同取締り等を実施する。」旨の報告があった。

公安委員から「旧車會の構成員数や年齢層は、どのくらいか。」旨の発言があり、警察本部から「県内の旧車會の構成員は428名で、年齢層は20歳以上の成人が多い。」旨の説明があった。

8 宗像警察署管内における死亡ひき逃げ事件被疑者の逮捕について

(交 通 部)

警察本部から「宗像警察署及び交通捜査課は、4月19日、福岡県宗像市の県道上において発生した死亡ひき逃げ事件について、同日、福岡県遠賀郡芦屋町居住の男性を過失運転致死等で逮捕した。」旨の報告があった。

【その他の報告事項】

○ 警察本部から「3月22日の定例会で報告した「地域警察官のスキルアップ研修会」の実施結果については、4月10日から18日までの間に、県内4地区で各3日間、延べ12回行い、317人の地域警察官が受講し、勤務管理・ハラスメント防止教養、各種業務管理システムの操作要領等を研修した。今後は、警察本部地域課による現場地域警察官に対する巡回業務指導の際に、個別に補充教養を実施していく予定である。」旨の報告があった。

○ 警察本部から「昨日、総務課長会議を開催し、各部門の課長会議が終了した。本日は、G20サミット対策課の発足式を行い、連休明けの5月8日には、春の勲章伝達式を開催し、委員長に出席いただく予定である。」旨の報告があった。

